

決算説明会

2019年3月期 第3四半期

ミネベアミツミ株式会社

2019年2月6日

売上高、営業利益等、すべて過去最高

[IFRS]

(百万円)	2018年3月期	2019年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	224,389	236,330	249,570	+11.2%	+5.6%
営業利益	21,051	19,624	31,124	+47.9%	+58.6%
税引前利益	20,700	20,106	30,333	+46.5%	+50.9%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	16,998	15,970	24,177	+42.2%	+51.4%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	40.55	38.04	57.92	+42.8%	+52.3%

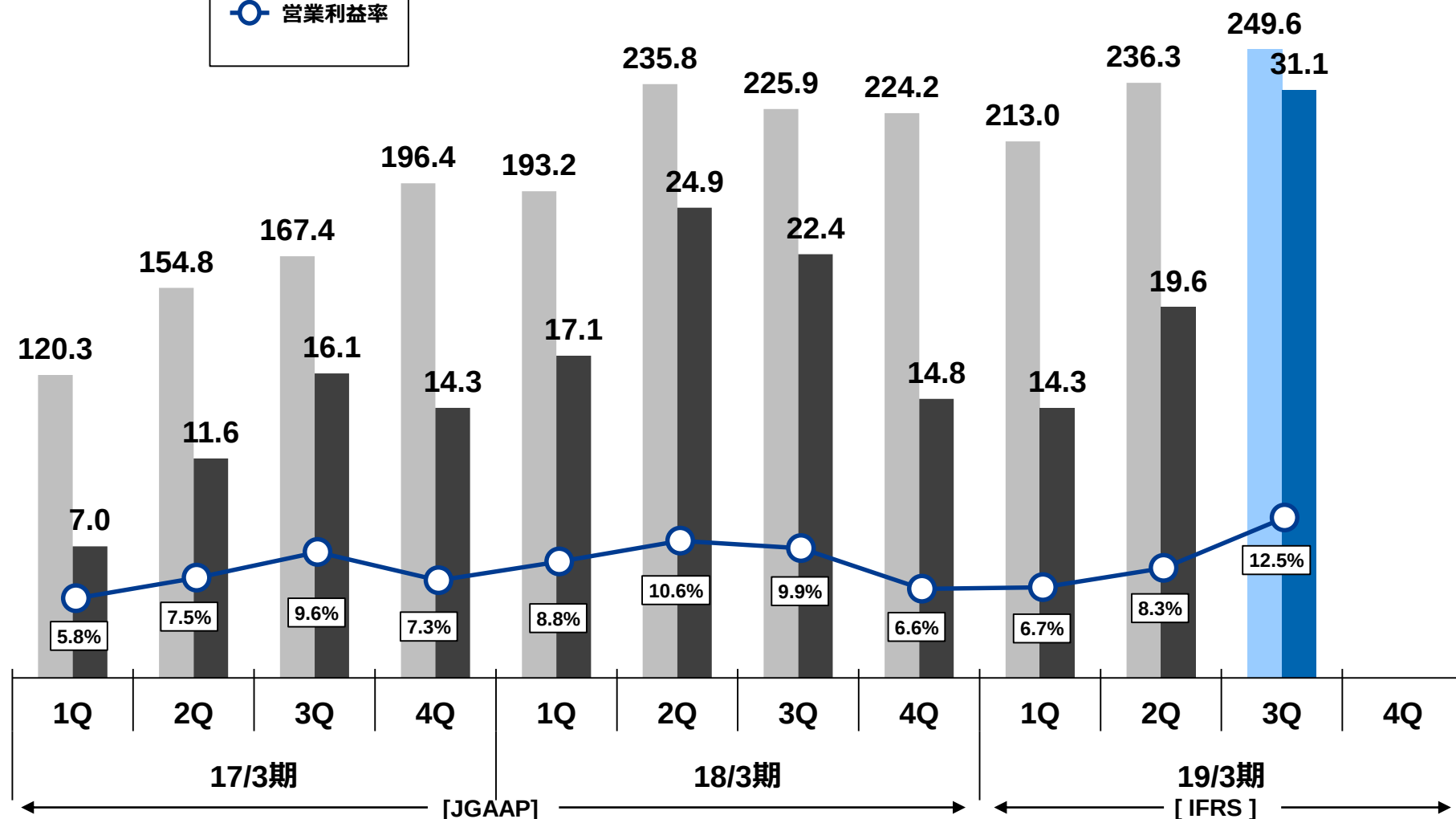
為替レート	18/3期 3Q	19/3期 2Q	19/3期 3Q
US\$	112.65円	110.87円	113.43円
ユーロ	132.47円	129.13円	129.92円
タイバーツ	3.41円	3.35円	3.45円
人民元	16.95円	16.37円	16.35円

売上高、営業利益、営業利益率

18/3期以前はJGAAP

(10億円)

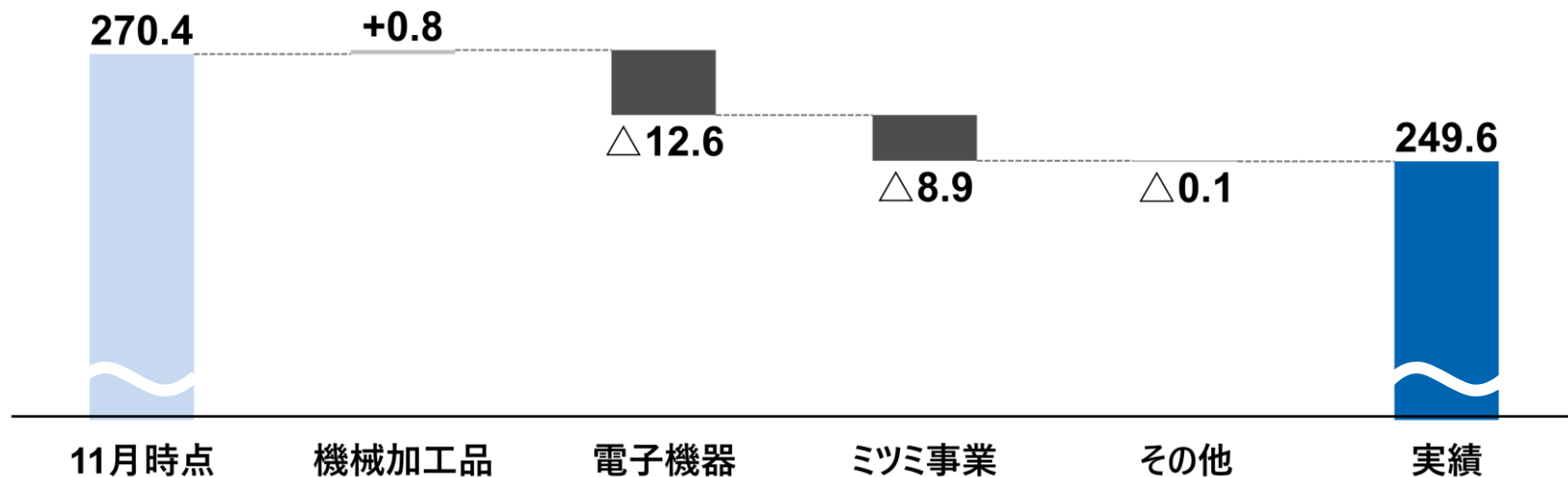
■ 売上高
■ 営業利益
○ 営業利益率



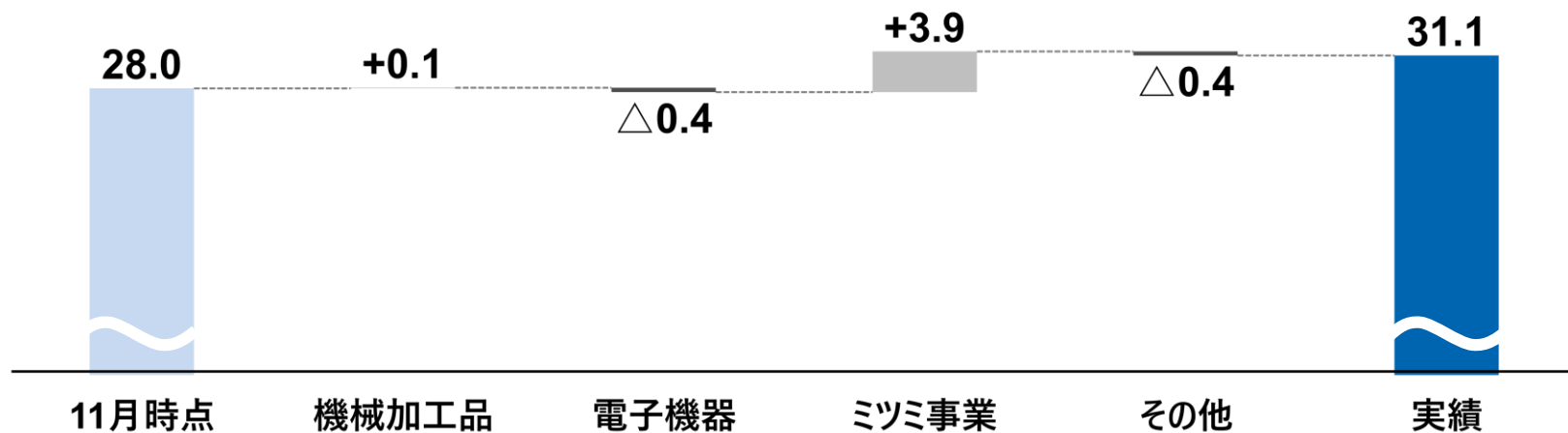
3Q実績 前回予想からの差異

(10億円)

売上高



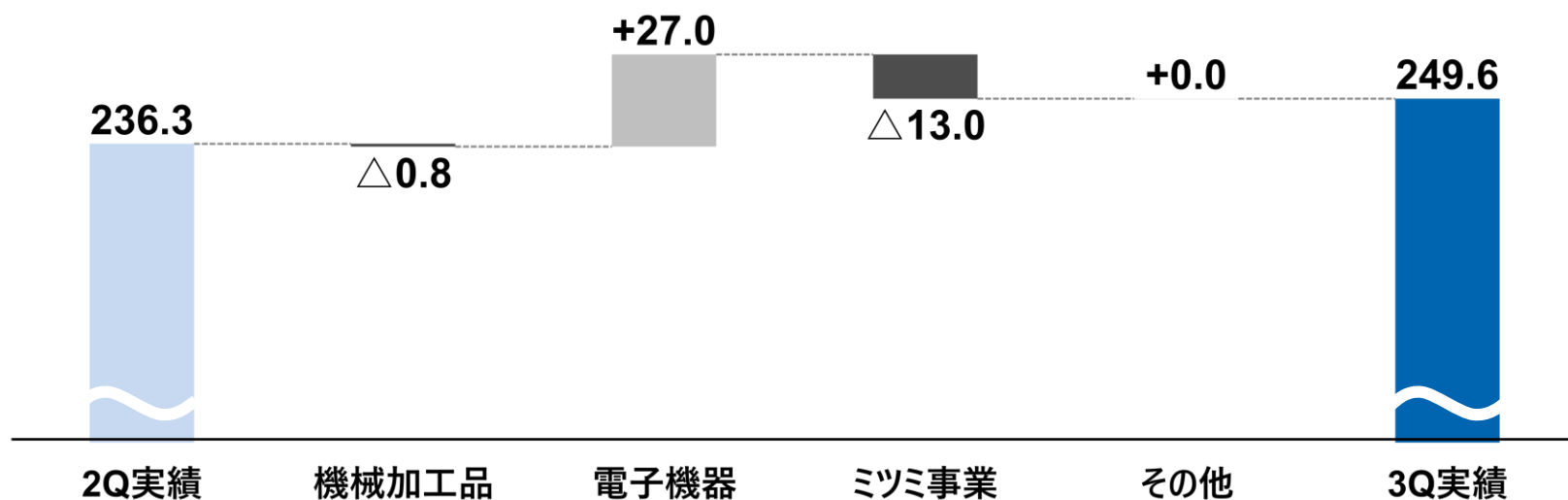
営業利益



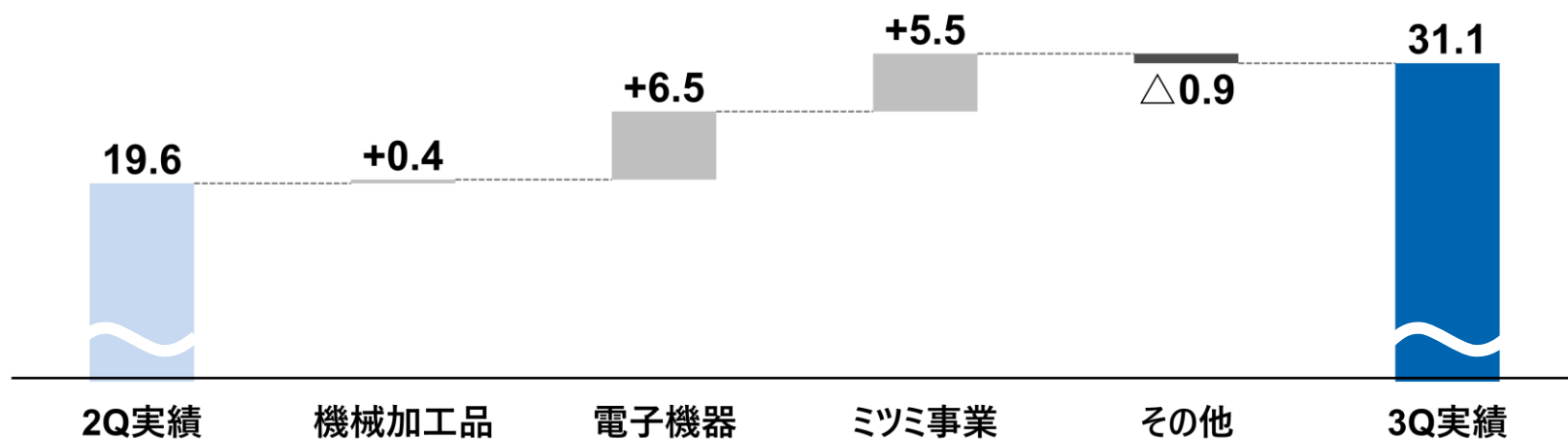
3Q実績 2Q実績からの差異

(10億円)

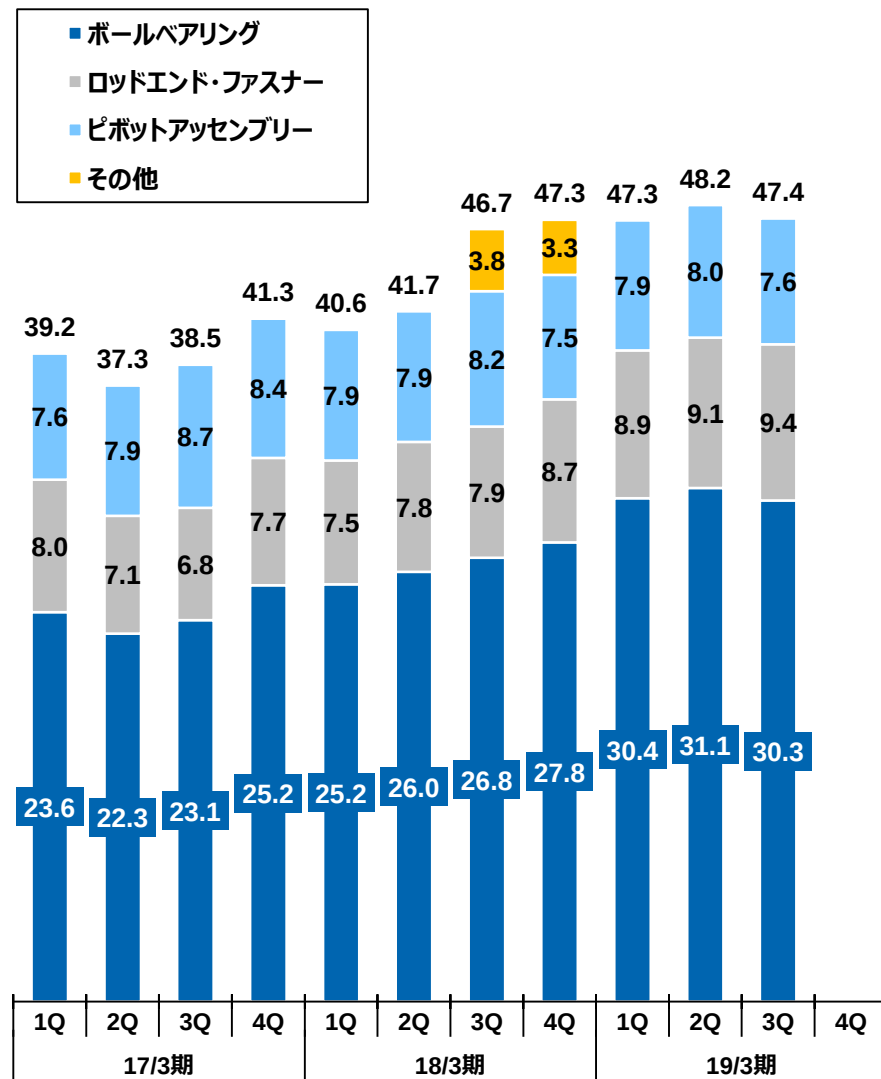
売上高



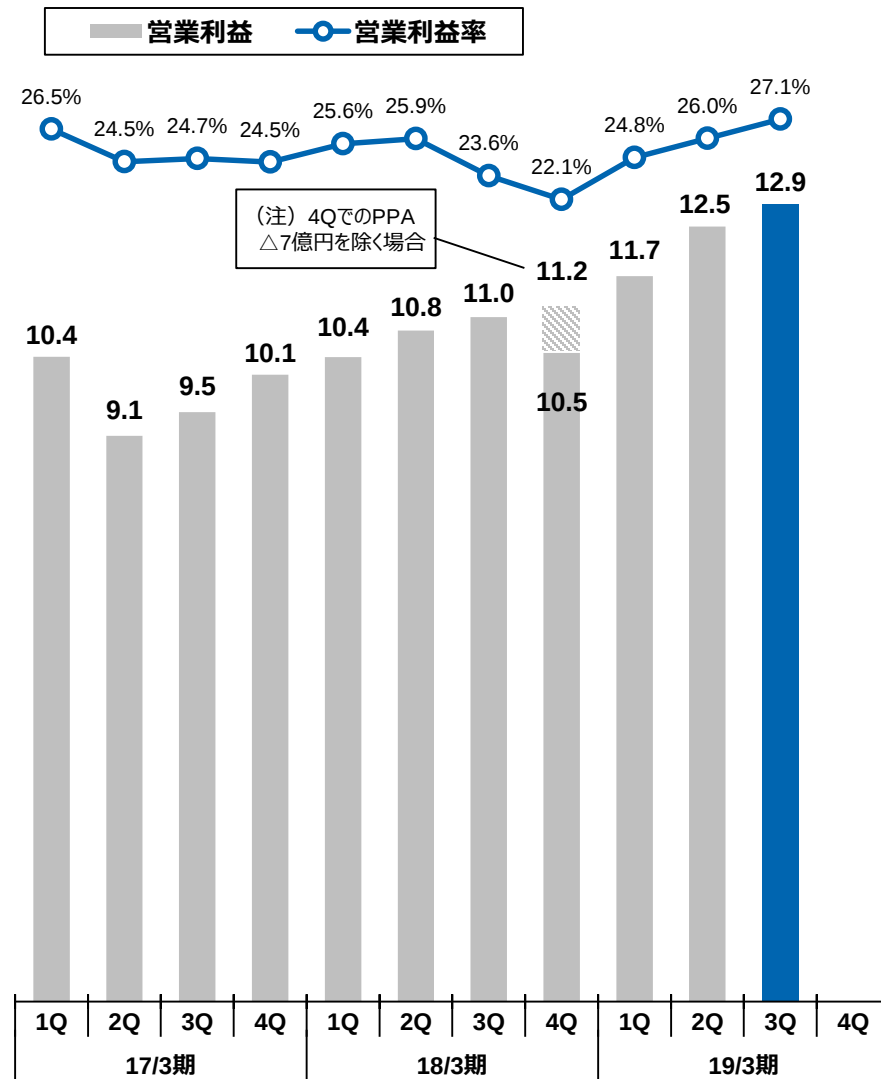
営業利益



売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

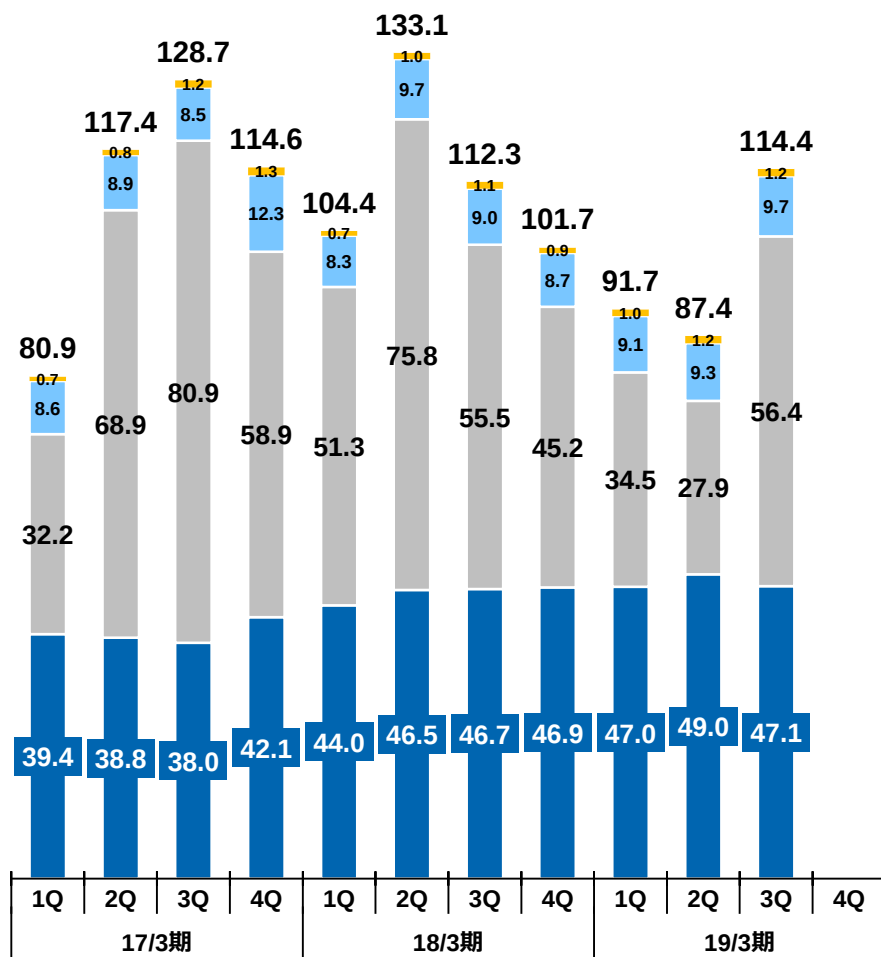


← [JGAAP] → ← [IFRS] →

← [JGAAP] → ← [IFRS] →

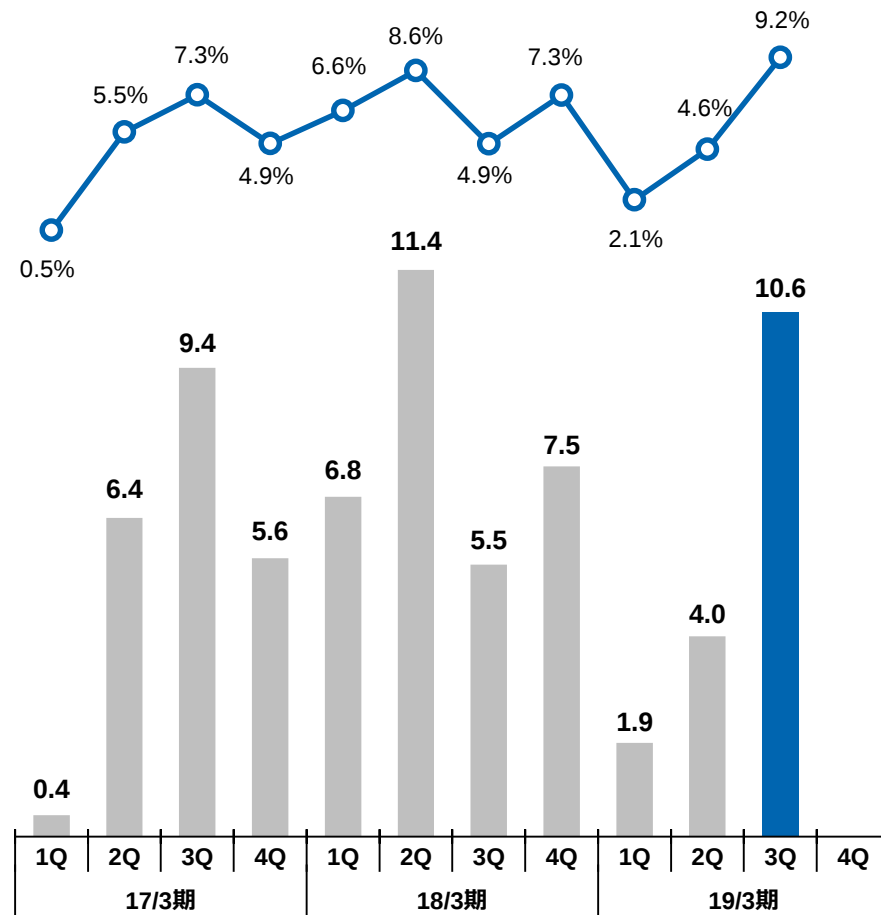
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (10億円)

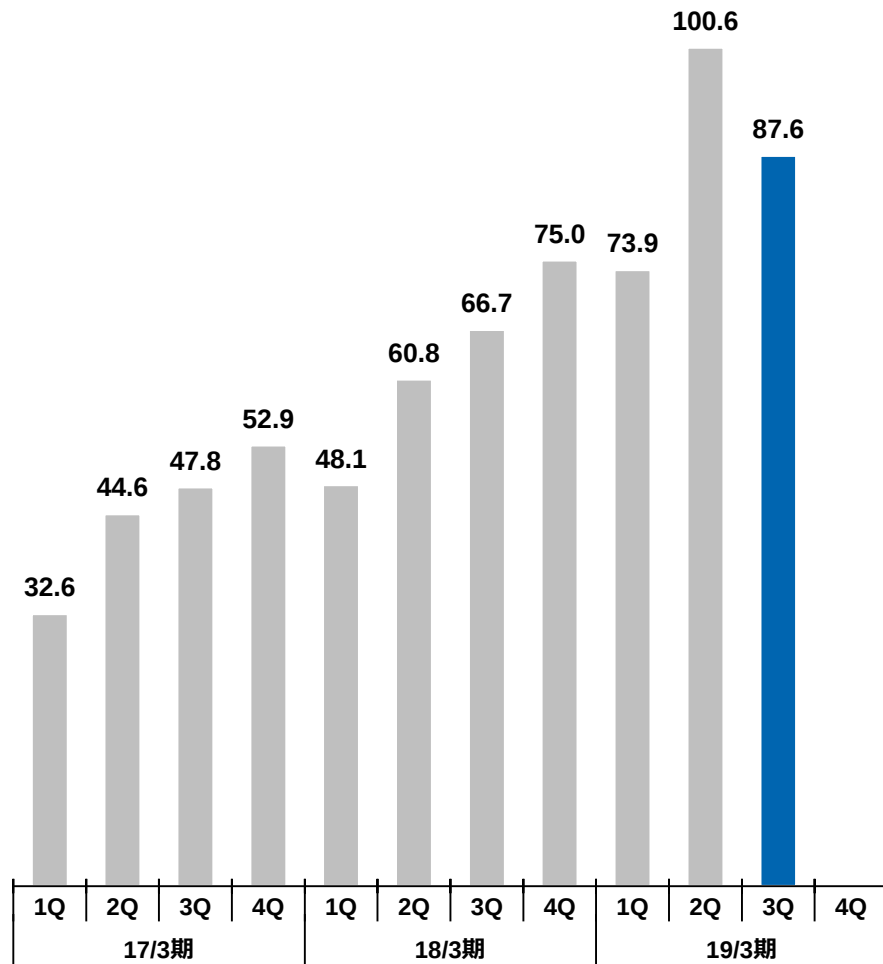
■ 営業利益 ○ 営業利益率



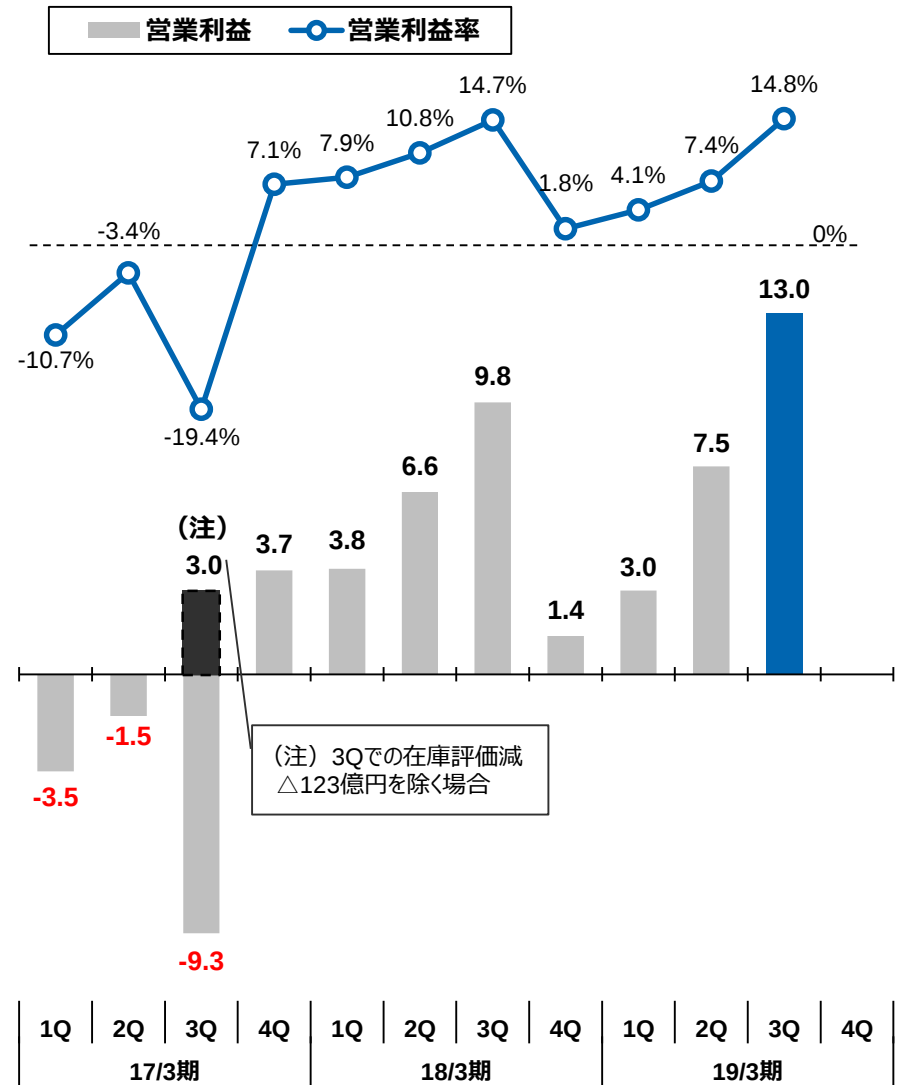
← [JGAAP] → ← [IFRS] →

← [JGAAP] → ← [IFRS] →

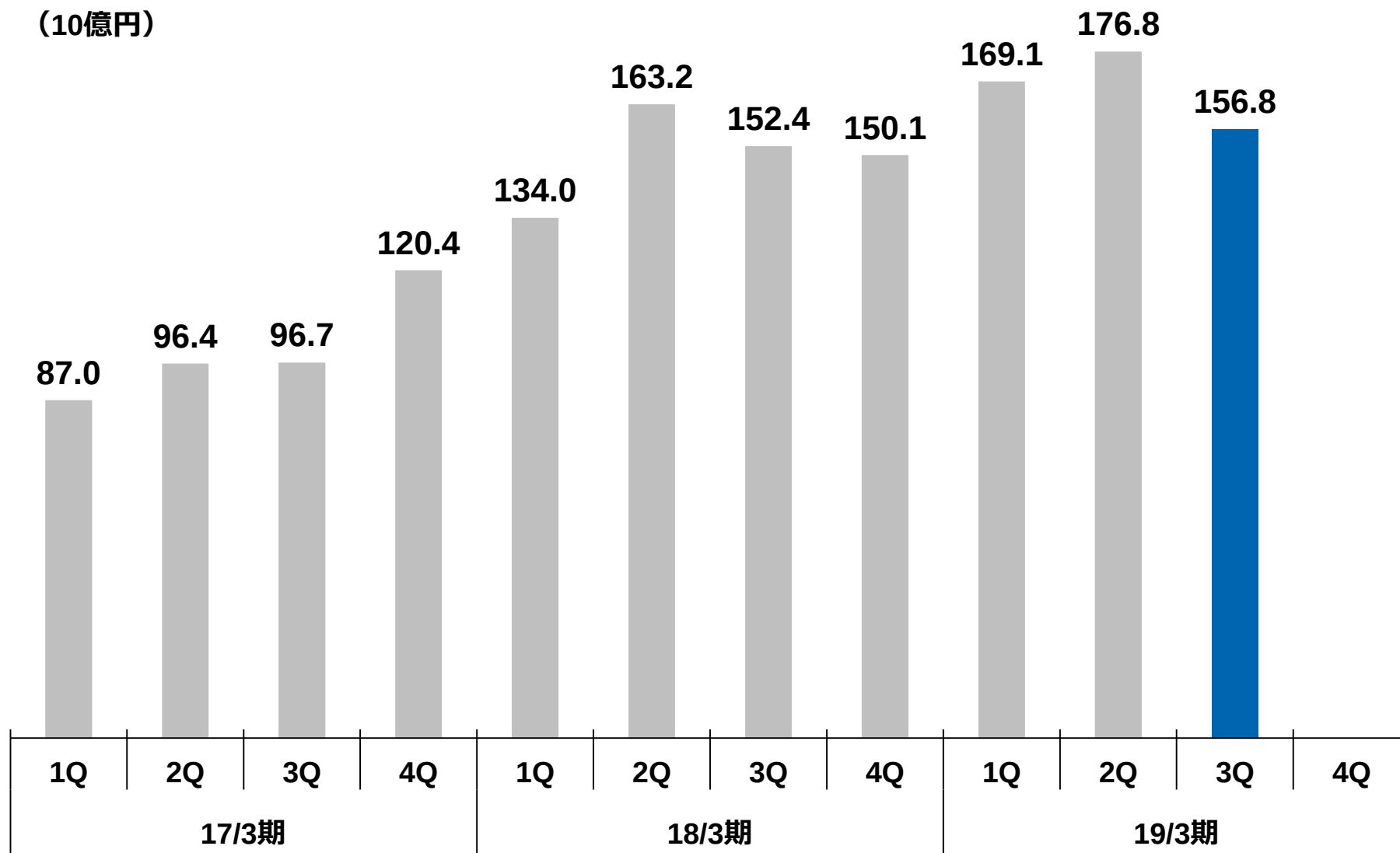
売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



(10億円)



[JGAAP]

[IFRS]

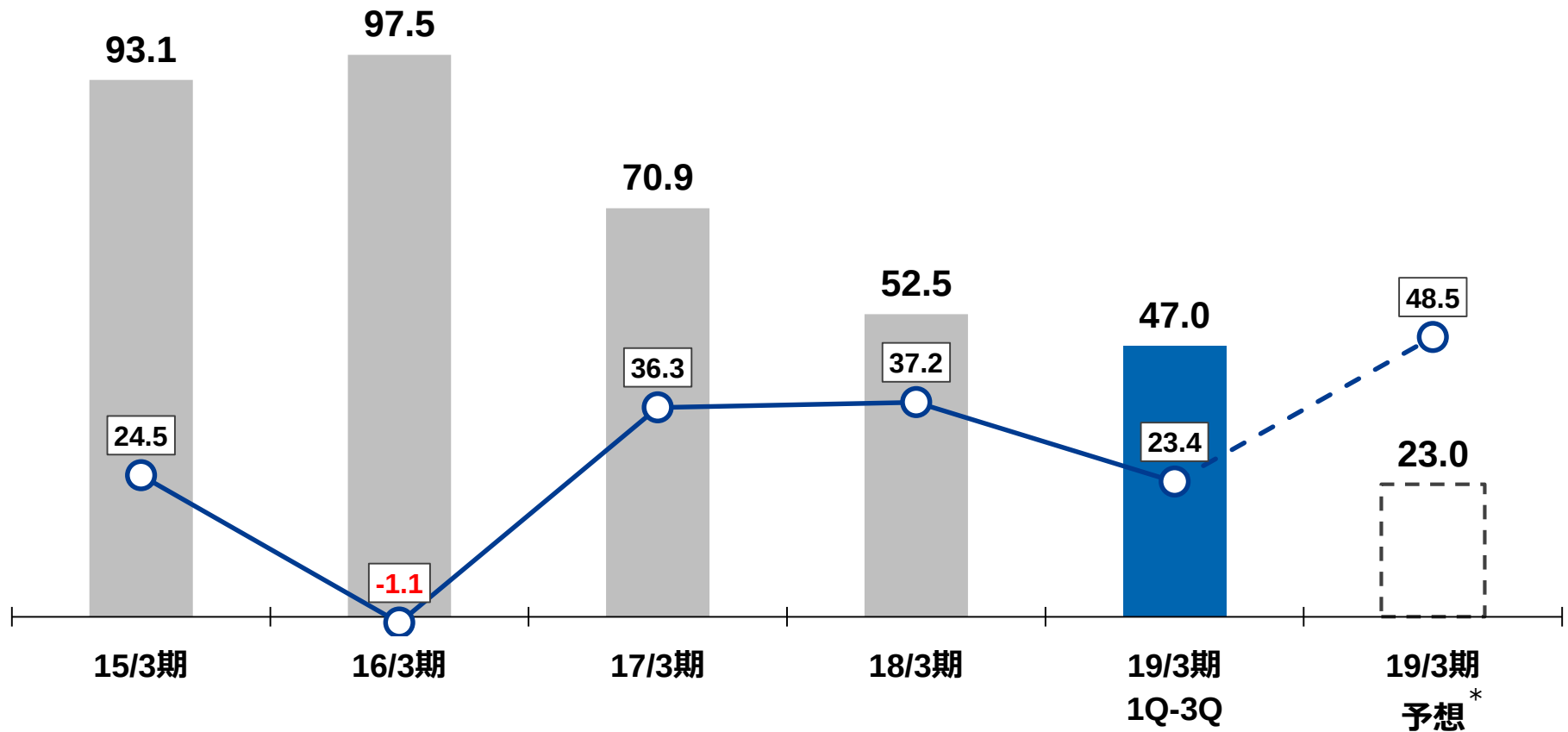
ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

18/3期以前はJGAAP

(10億円)

■ ネット有利子負債

○ フリーキャッシュフロー



*TOBによる影響は含まず

[JGAAP]

[IFRS]

当期利益は過去最高へ

[IFRS]

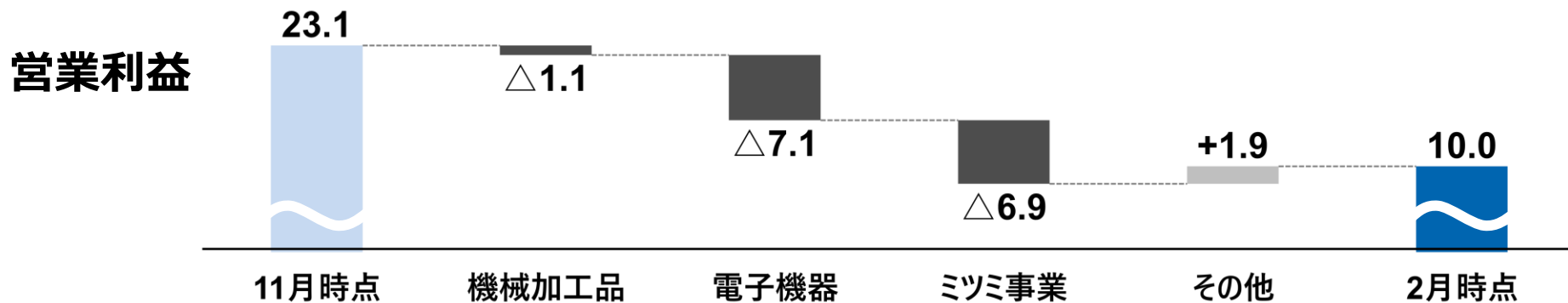
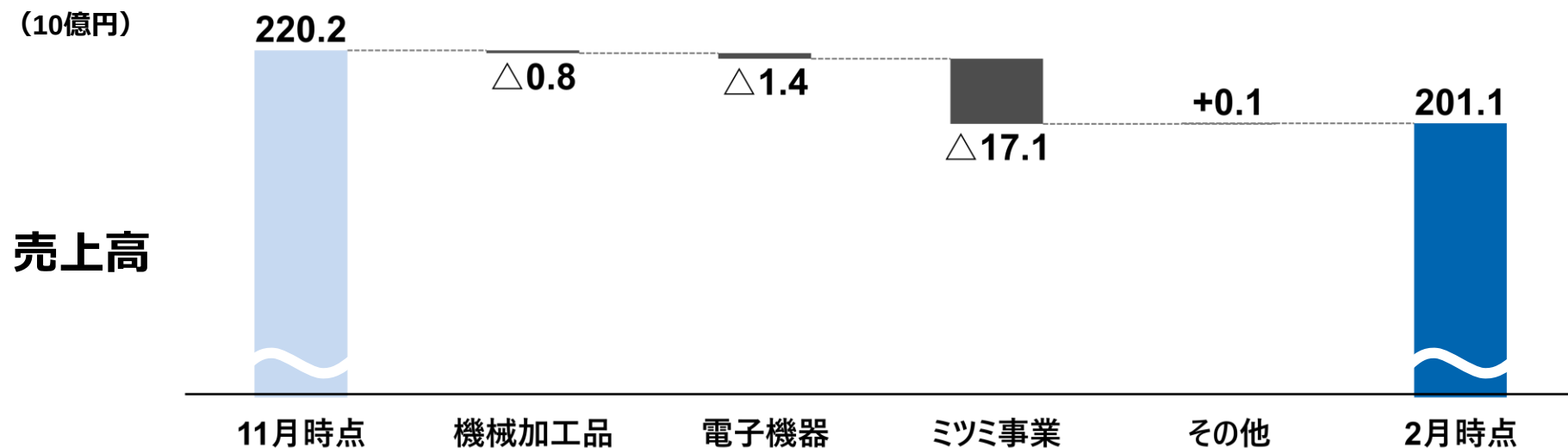
(百万円)	2018年3月期 通期	2019年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	881,413	449,368	450,632	900,000	+2.1%
営業利益	68,903	33,915	41,085	75,000	+8.8%
税引前利益	66,855	34,276	40,724	75,000	+12.2%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	50,326	26,856	33,144	60,000	+19.2%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	119.61	64.00	79.68	143.68	+20.1%

為替レート	18/3期 通期	19/3期 4Q想定
US\$	111.19円	110.00円
ユーロ	129.36円	130.00円
タイバーツ	3.35円	3.39円
人民元	16.70円	16.40円

[IFRS]

(百万円)	2018年3月期 通期	2019年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	881,413	449,368	450,632	900,000	+2.1%
機械加工品	176,427	95,435	94,565	190,000	+7.7%
電子機器	451,879	179,142	216,858	396,000	-12.4%
ミツミ事業	252,415	174,482	138,518	313,000	+24.0%
その他	693	309	691	1,000	+44.3%
営業利益	68,903	33,915	41,085	75,000	+8.8%
機械加工品	41,007	24,205	24,795	49,000	+19.5%
電子機器	24,096	5,914	13,586	19,500	-19.1%
ミツミ事業	20,069	10,484	12,516	23,000	+14.6%
その他	△806	△159	△41	△200	-75.2%
調整額	△15,463	△6,529	△9,771	△16,300	+5.4%

4Q業績予想 前回予想からの差異



- 3Q全体：機械加工品とミツミ事業の3Q営業利益は、四半期として過去最高を更新*。ただし、**スマホ向けは減速**。
- 4Q全体：マクロは米中貿易摩擦で中国需要が減速。
 - ✓ スマホ部品：4Qは保守的な想定をさらに上回って急減速。
 - ✓ HDD部品：ハイエンド／ローエンドとも低空飛行。
 - ✓ 機構部品：4Qは生産を絞って在庫圧縮。
来期は期初から収益貢献へ。
- ユーシン統合は、**競争法クリアランスが完了**。
来期の早期でのシナジー発現に向けて統合準備を本格化。
- **新製品の投入**を加速し、新たな分野への参入を推進。
- **積極的な株主還元**（機動的な自社株買いを含む）。

*今期よりIFRSを任意適用しているため、過去のJGAAPの数値を参考とした場合

ボールベアリングの足元は一部調整局面

ボールベアリング事業

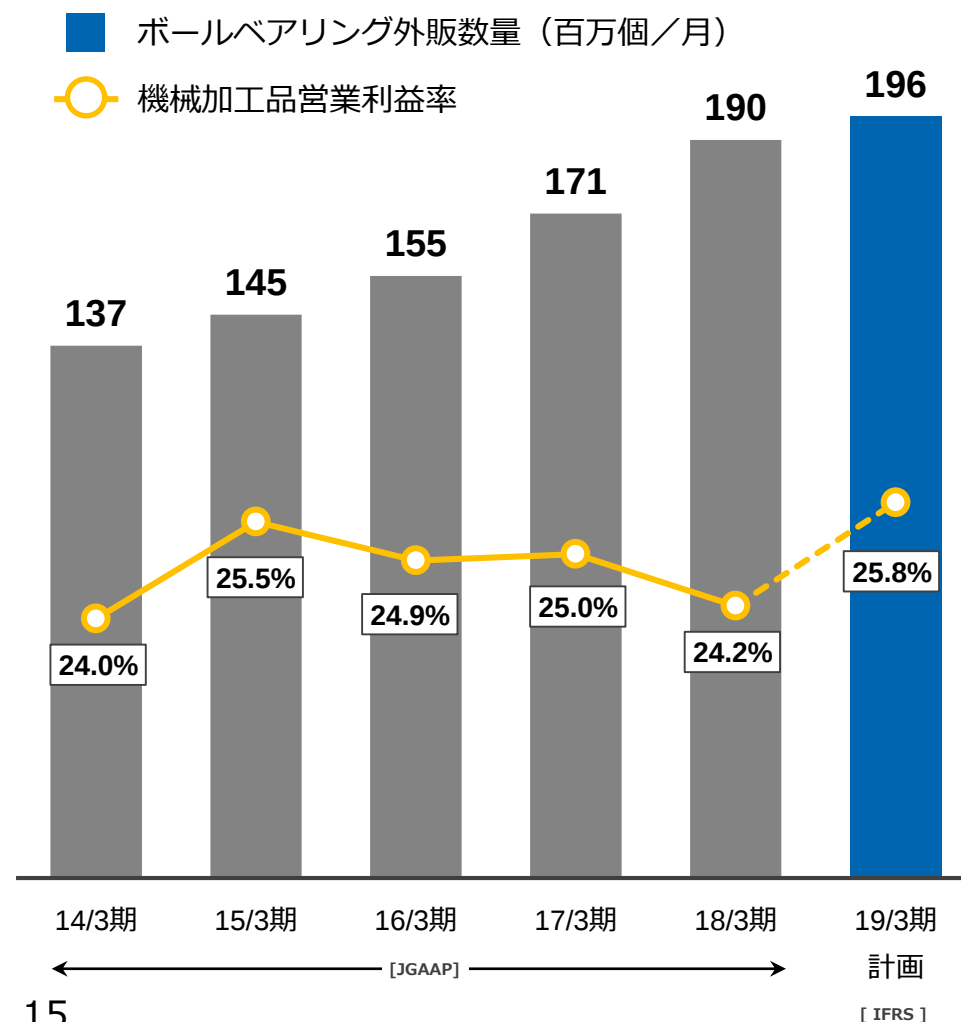
- データセンター、HDD、高級家電を中心に3Q、4Qは一部用途向けで減速感が顕在化。
- 自動車向けは、構造的な数量増。
- 内販は、ピボット向けで縮小傾向。
- 積極的な拡販で裾野を広げる。
- 生産は維持し、在庫の適正化と輸送費の低減へ。

ロッドエンド・ファスナー事業

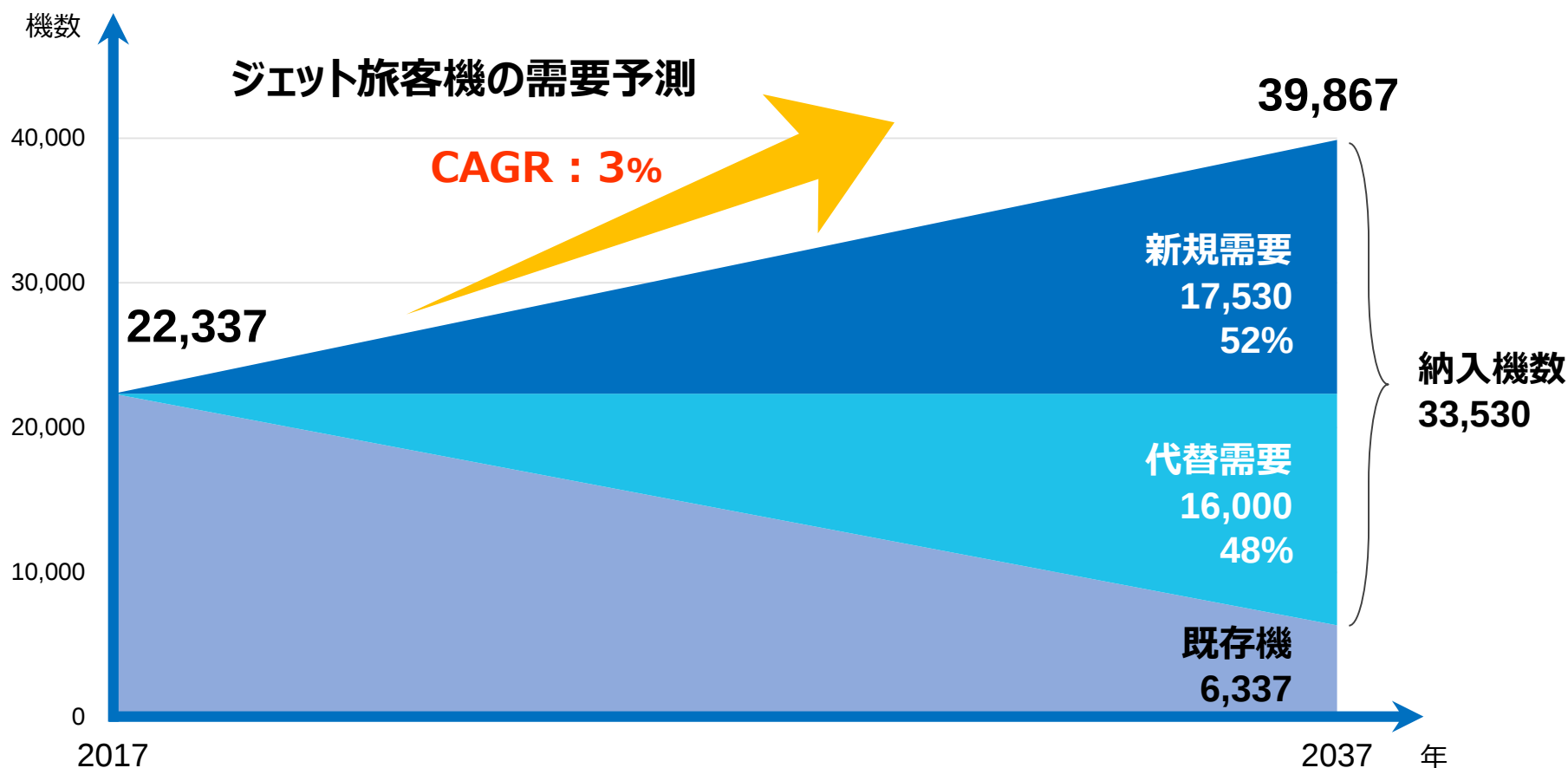
- 収益性は順調に改善。

事業環境堅調で、機械加工品の
成長ドライバーへ

ボールベアリング外販数量と機械加工品の営業利益率



航空機は新規需要と代替需要で長期安定的に成長



出典：一般財団法人 日本航空機開発協会

LEDバックライトとモーターの 足元の急激な変化を反映し、通期計画を修正

LEDバックライト事業

- 3Q収益はほぼ計画線。
- 4Qは急減産の影響を受ける見込み。

モーター事業

- 4Q以降、HDDおよび一部OA・家電向けを中心に減速の見込み。
- 今期の減益幅は、**売上減少見合い**。

センシングデバイス事業

- 安定的に収益に寄与。



スマホ・ゲームは急激な環境変化 機構部品は在庫を圧縮

光デバイス事業

- 3Qは減産の影響により、収益は計画を下回る。
- 4Qも引き続き急減産の影響を受ける見込みも、中国スマホ向け新機種 of 立ち上げに注力。
- 中長期では、**複眼化と付加価値向上**で事業機会増大。

機構部品事業

- 4Qは生産を絞って在庫圧縮。来期は期初から収益貢献へ。

経営統合準備を本格化し、早期のシナジー発現へ 3年以内に営業利益100億円を目指す

● 各国競争法クリアランスが完了。

● 経営統合準備を本格化し、**早期のシナジー発現**へ。

◆ トップラインシナジー

- ✓ 短期的には、住設向けを中心とする拡販。
- ✓ 中長期的には、「CASE」時代における車載ビジネスのポートフォリオ強化。

◆ コストシナジー

- ✓ 製造拠点の相互活用。
- ✓ オーバーヘッドの削減。
- ✓ 物流・購買のスケールメリット活用。
- ✓ 部品内製化による原価低減（モーター等）。

2018年11月7日
TOB開始予定のお知らせ

国内外の競争法に基づき
必要な手続及び対応

2019年1月
各国当局からの承認取得

統合準備期間

ユーシンの子会社化



スクイーズ
アウト

新製品の投入を加速し、新たな分野への参入を進める



新製品三羽鳥は離陸完了！

来期より新規投入または立ち上げる新製品

アウトプット デバイス

- ・ グリッパー
- ・ エンコーダ付ステッパー
- ・ モーターコントローラ
- ・ レゾナントデバイス
- ・ ウェイビーノズル®

センサ

- ・ ミネージュ™
- ・ LIDAR
- ・ 6軸センサー

コネクティビティ

- ・ Lin-bus HVAC
- ・ FAKRA コネクタ

+ その他 非公開製品

- 1 「M&A」と「既存製品の相合によるオーガニック」で成長を加速
- 2 1兆円を土台に足場を固める（1兆円+1,000～2,000億円のレンジ）
- 3 「相合」による新製品で売上の拡大を図る
- 4 ユーシンでスマホ、HDDの落ち込みをカバーする
- 5 積極的な株主還元（機動的な自社株買いを含む）

自社株買い実績（2018年12月17日取得終了）

- 取得株式総数：実績 630万株
（発行済株式総数（自己株式を除く）の1.49%）
- 取得株式総額：実績 106億円

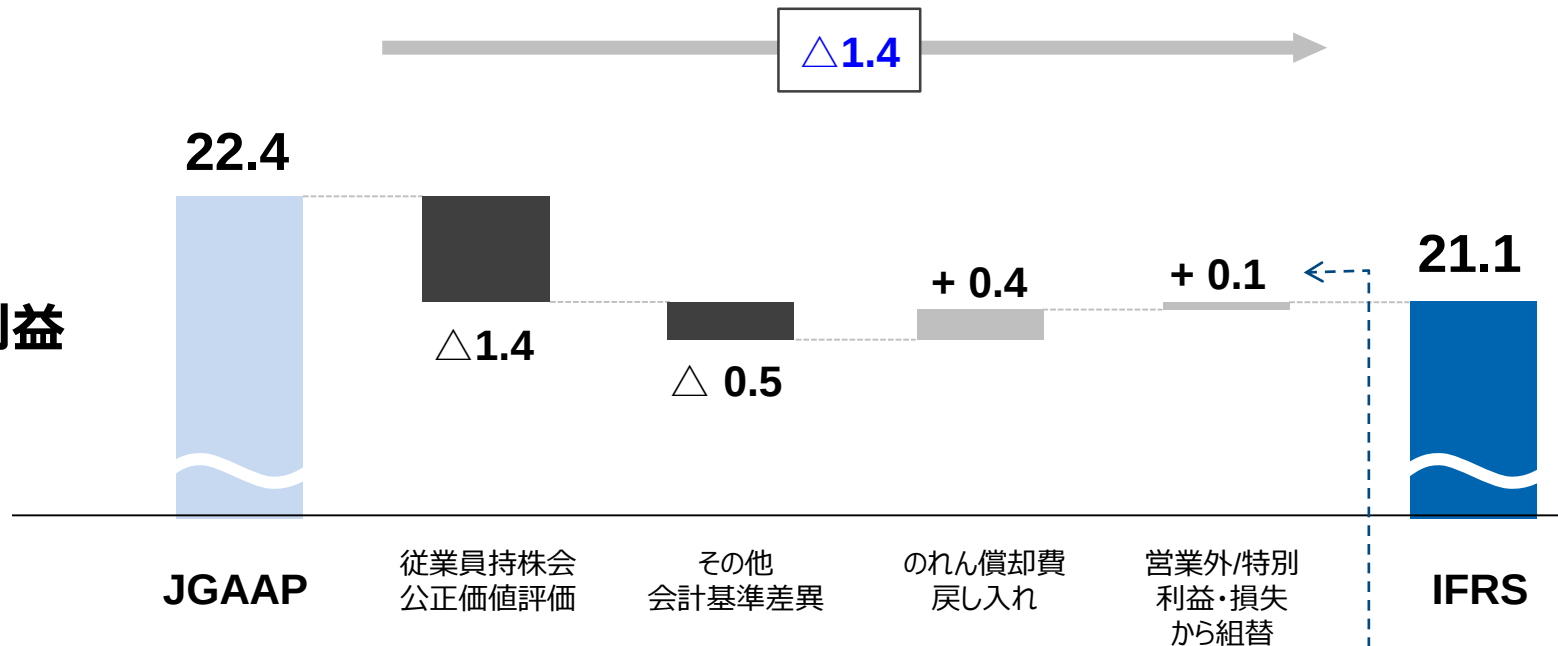
配当を含めた今期の総還元性向は **37%へ**

参考資料

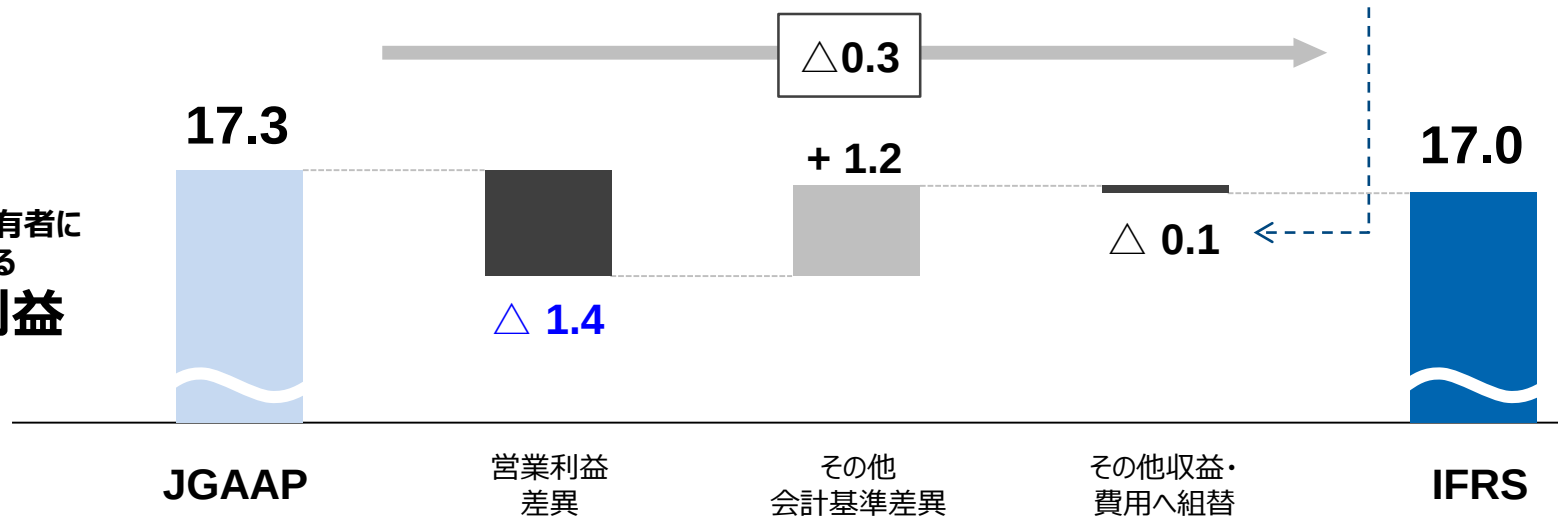
2018年3月期 第3四半期 JGAAPとIFRSの差異

(10億円)

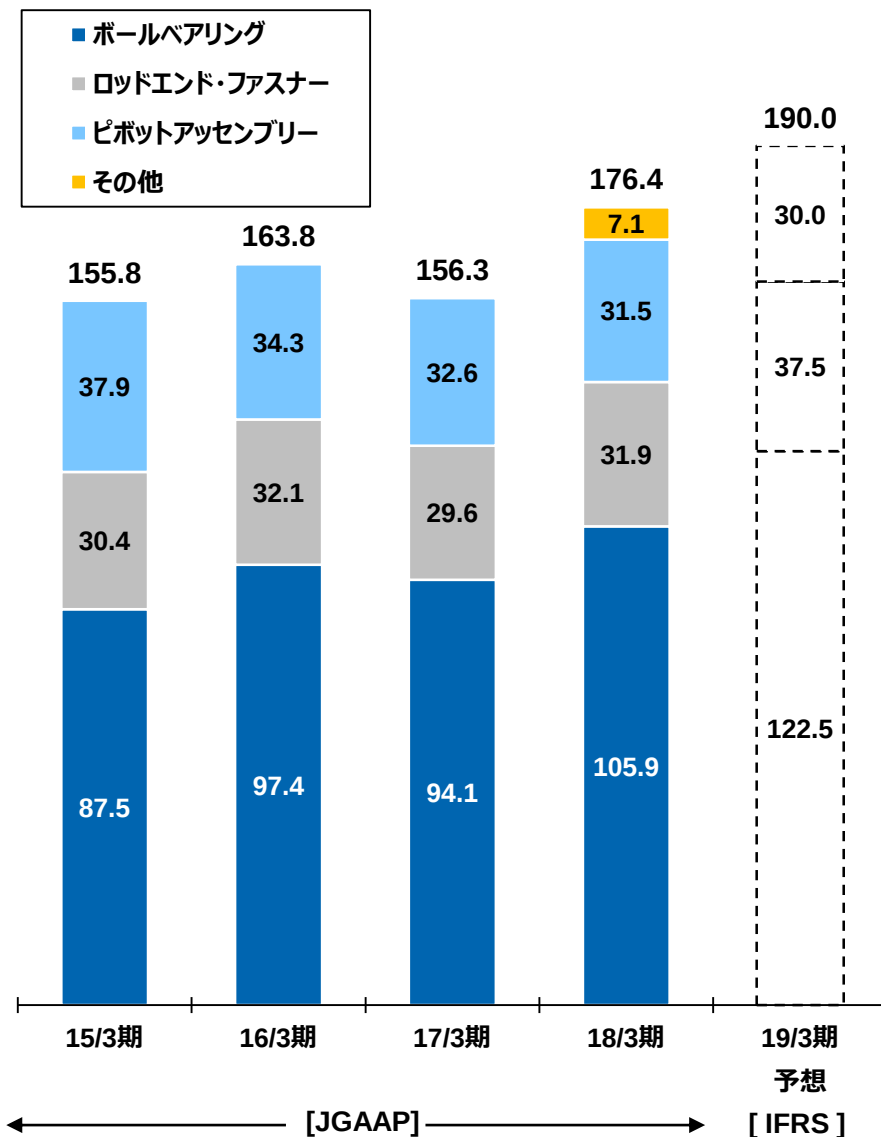
営業利益



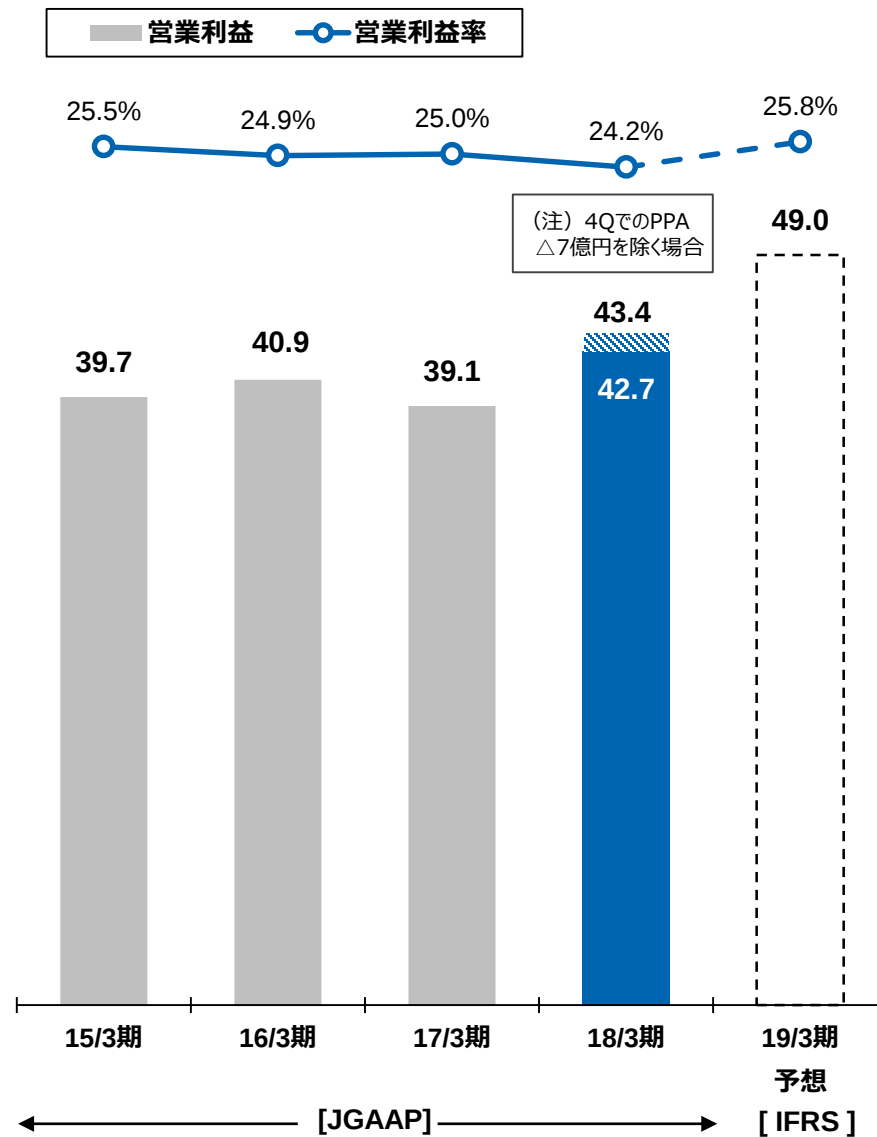
親会社の所有者に
帰属する
当期利益



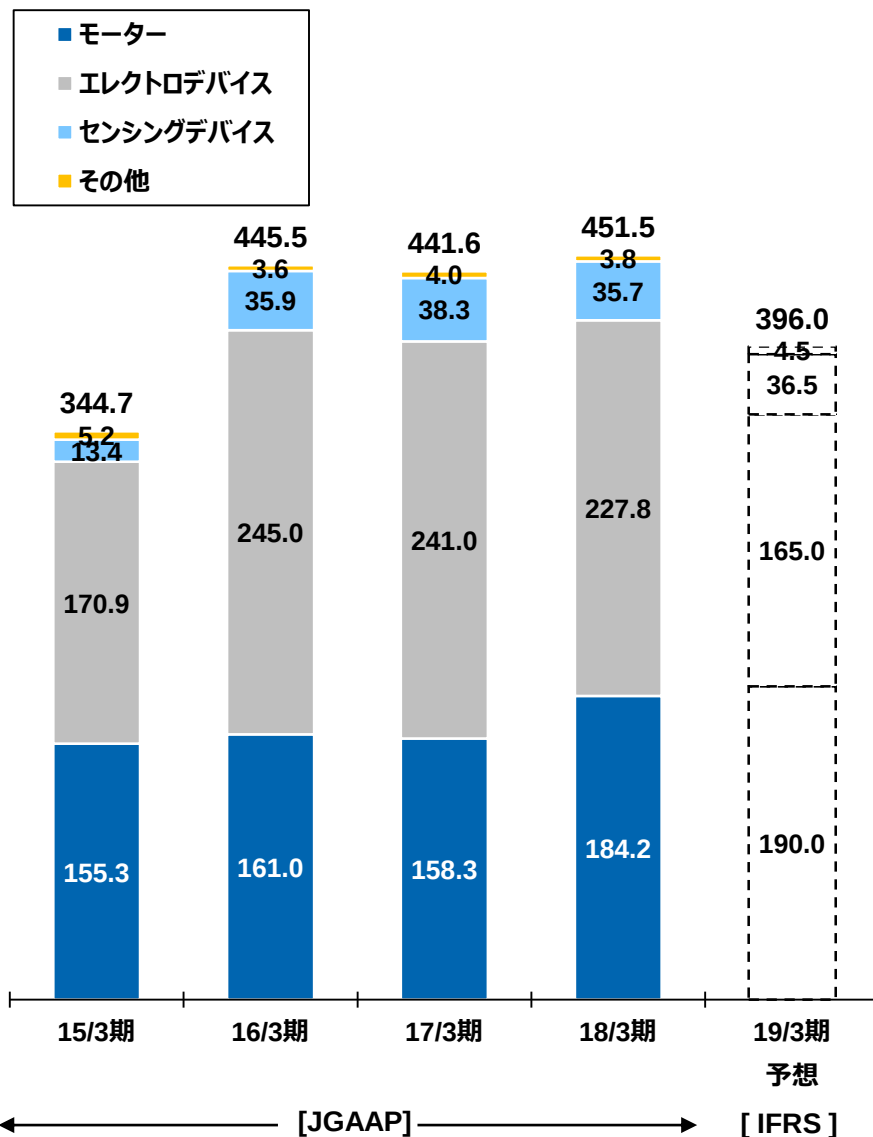
売上高 (10億円)



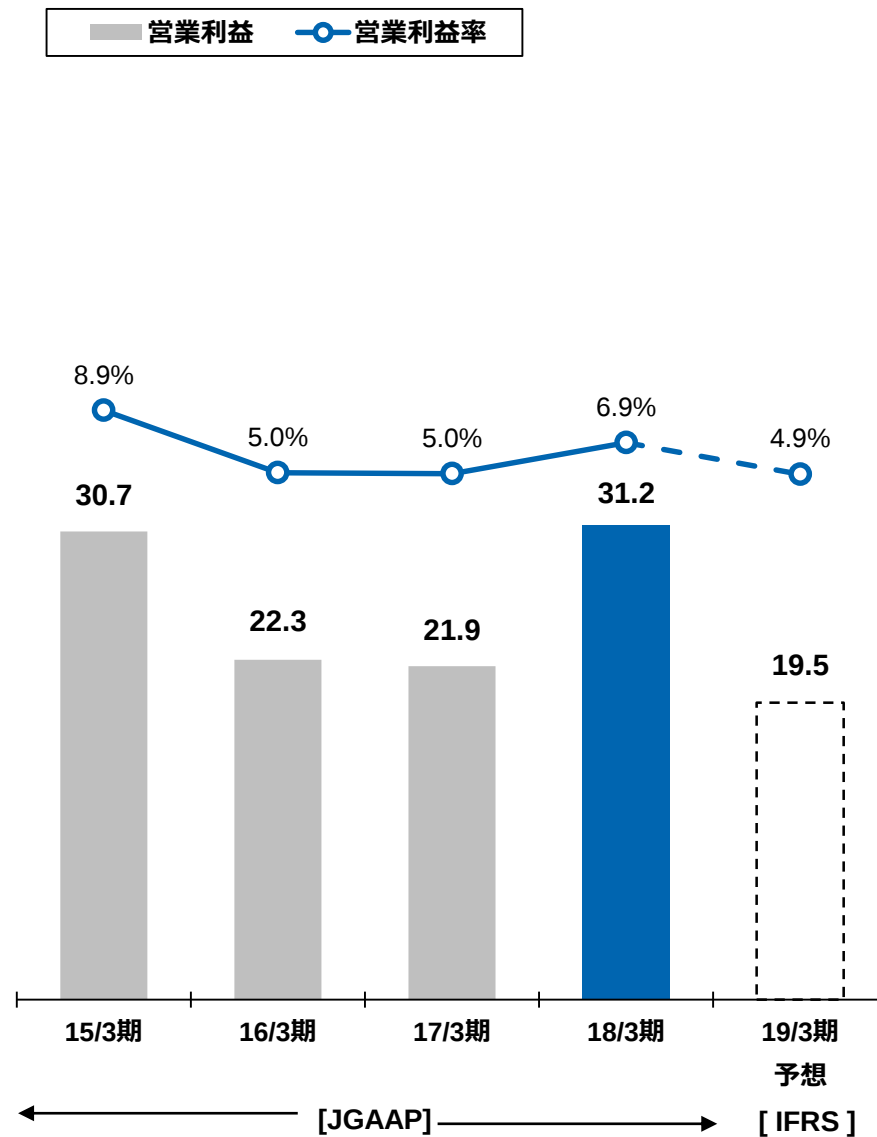
営業利益 (10億円)



売上高 (10億円)



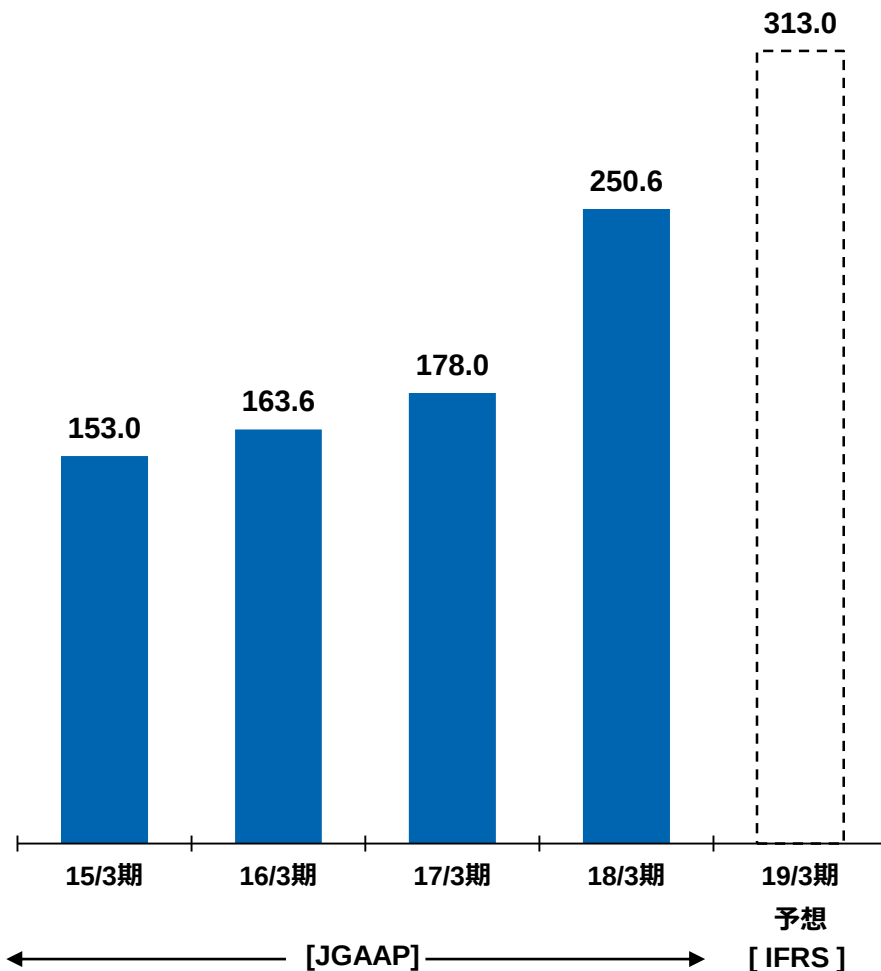
営業利益 (10億円)



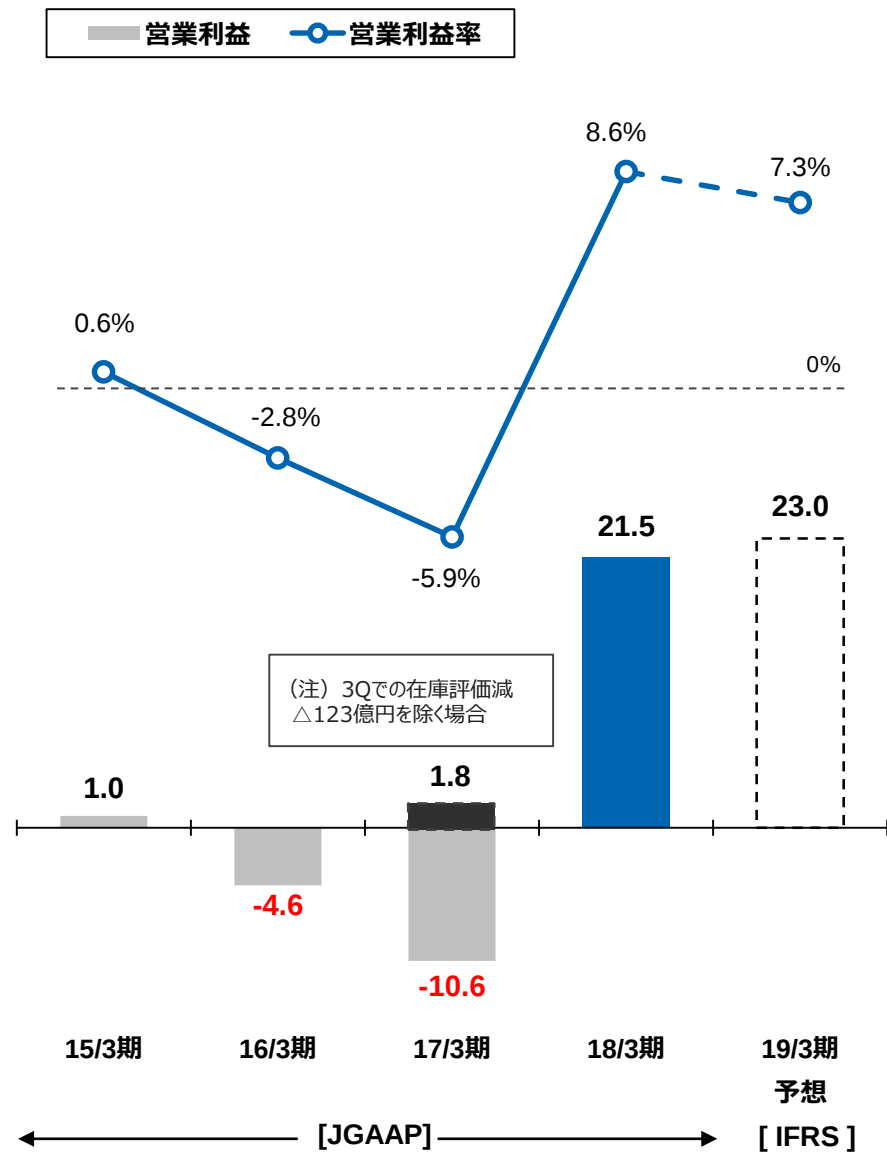
ミツミ事業セグメント (含む統合前)

売上高、営業利益ともに、17/3期3Qまでは、経営統合前。
17/3期4Qは3ヶ月分の管理会計ベース。18/3期以前はJGAAP

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



サステナビリティに関するトピックス

「指名・報酬委員会」設置

- 改訂コーポレートガバナンス・コードを契機に、2018年12月設置
- 委員の過半数（4名中3名）が独立社外役員
- 委員会の議長に独立社外取締役が就任

取締役の指名・報酬決定における、取締役会の機能の独立性・客観性と説明責任を強化

CDPへの対応

- 2018年8月、CDP2018質問書への回答を実施
- 2019年1月22日、CDPよりスコアの公表
当社 気候変動： B（マネジメントレベル）
ウォーターセキュリティ： B（マネジメントレベル）



社会的課題の解決と経済価値の創出が調和した事業活動を推進

GPIF「優れた統合報告書」と「改善度の高い統合報告書」に選定

- GPIFの国内株式運用機関による選定
- 「改善度の高い統合報告書」としては4機関以上から高い評価

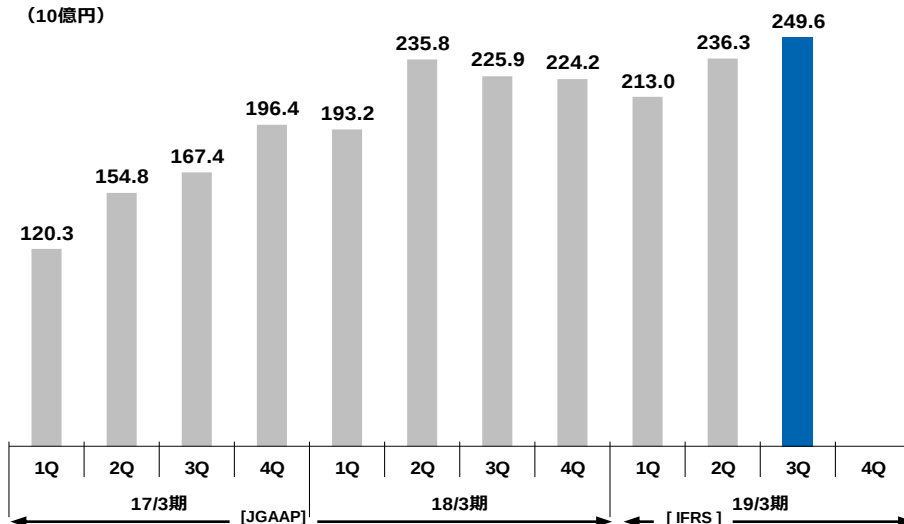
当社の持続可能性と価値創造ストーリーの説明を継続していく

その他四半期実績①

18/3期以前はJGAAP

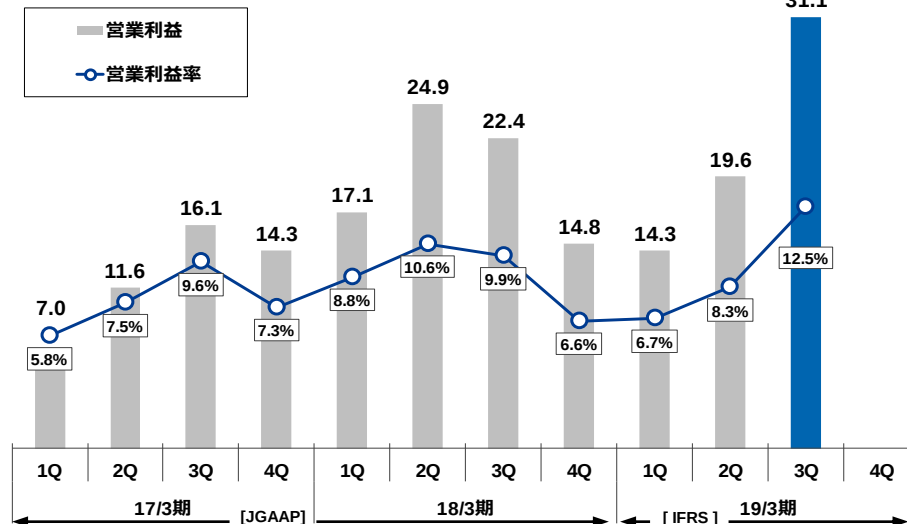
売上高

(10億円)



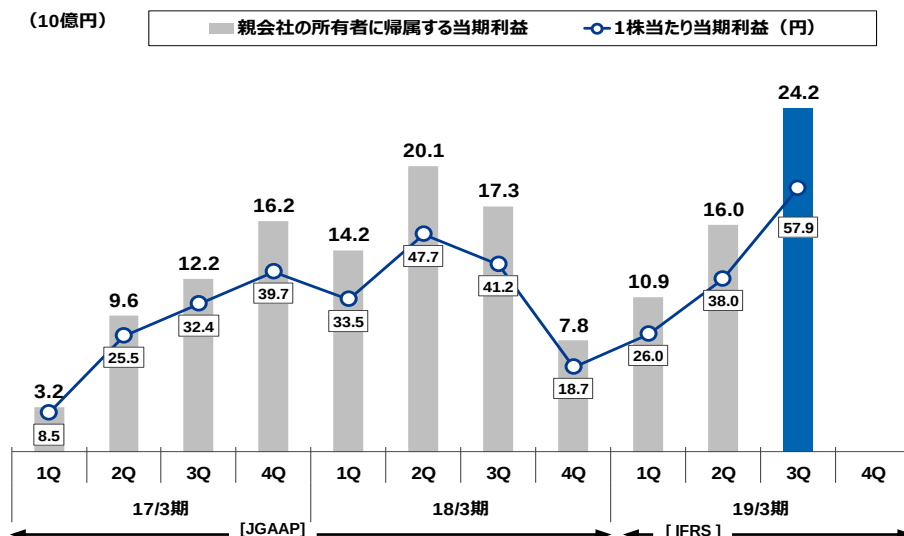
営業利益、営業利益率

(10億円)



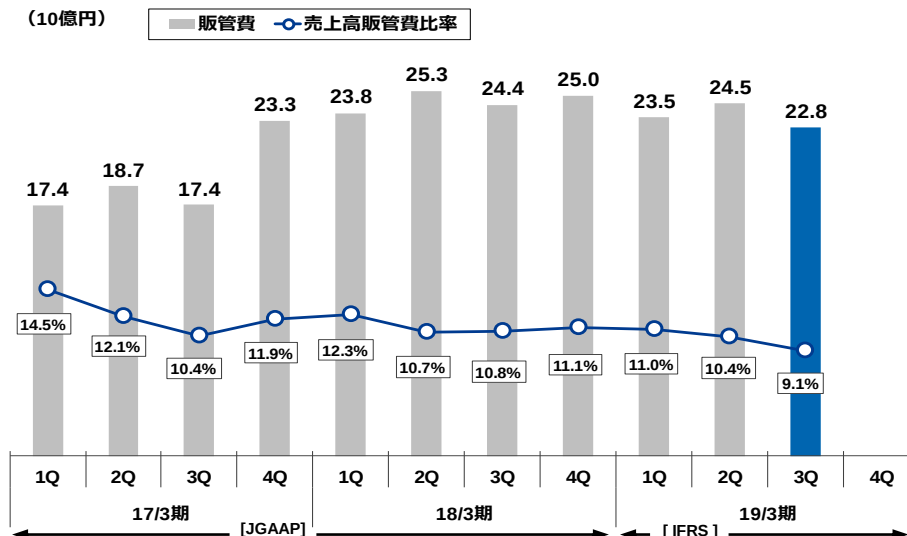
親会社の所有者に帰属する当期利益、1株当たり当期利益

(10億円)



販管費、売上高販管費比率

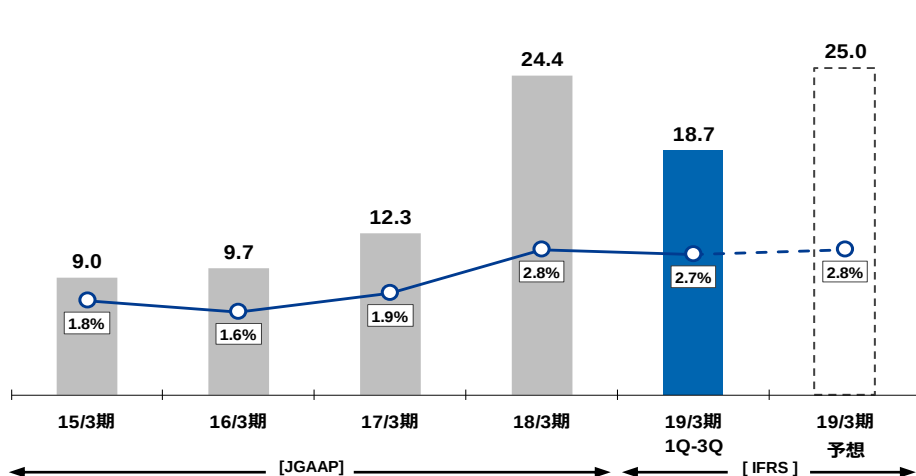
(10億円)



研究開発費、対売上高比率

(10億円)

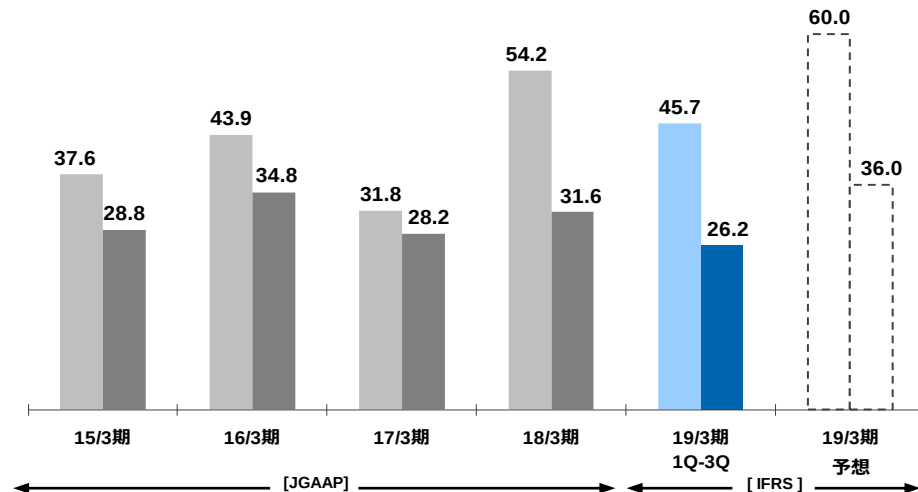
■ 研究開発費 ○ 研究開発費売上高比率



設備投資額、減価償却費

(10億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



ミネベアミツミ版
ROIC

=

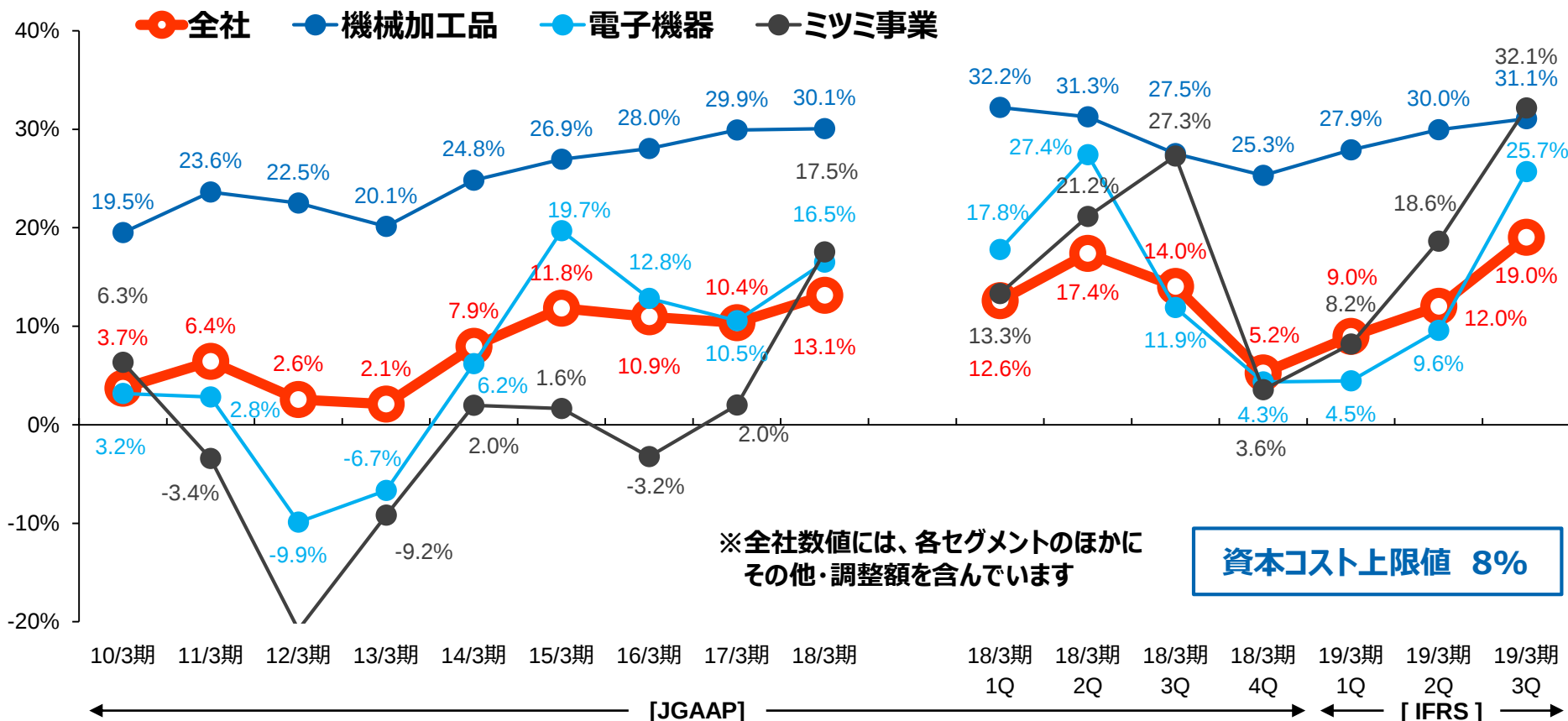
NOPAT

（営業利益＋特別損益）×（1－税率）

投下資本

（受取手形・売掛金＋棚卸資産＋固定資産－支払手形・買掛金）

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出





上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。